

令和4年6月23日 議会改革特別委員会 議事録
10時00分 再開

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 副委員長 西村 一啓

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

それでは定足数に達していますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

また、今日は西村副委員長が体調不良で、欠席の連絡を受けておりますので、よろしく
お願いいたします。

それでは議事日程第1、議会改革特別委員会6月1日と7日の協議内容、無投票を回避
するための打開策についてのまとめをサイドブックに載せておりますが、どうでしょう
か。修正があれば、よろしくお願いします。

小田上委員。

○小田上委員 おはようございます。

まとめ、前回の打開策のところ、現状では大変難しいとの意見が多くありましたって
いうところなんですけど、取り組んでいるものも過去2年間ありますし、これまで取り組ん
できたものもあるが、即効性があるものはなかなかないというような意見も出てたと思
います。

なのでそこをちょっと、大変難しいって言葉だけだと分かりにくいと思うので、即
効性のあるものがないとか、長期間にわたるとかっていうものが必要なと思いま
した。

あとは各項目、もう少し深掘りしたほうがいいんじゃないかっていう意見もあつたよ
うに思いますが、そこをどう入れていこうか、入れたほうがいいのかなどというところ
です。

○網谷委員長 関連事項としてのところですか、その5項目の。

ちょっと皆さん、気がいたら入れていただきたいんですが。

まず、最初の今の小田上委員が言われたことについての問いには、定数削減が3名、そ
のほかが13名と、現状では大変難しいとの意見が多くありました。

取り組んでみましたというところをもうちょっと詳しく、今、小田上委員が言われたよ
うなところを教えてください。

小田上委員。

○小田上委員 現状では、の後ですね。大変難しいって言う、ここを、即効性があるもの
が見つからないとかっていうところなのかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それから後の項目のところの、教えてください。もうちょっと深掘りということな

んですが。

小田上委員。

○小田上委員 その深掘りっていうところなんですけど、もっと深掘りすればいいよねっていう意見があったように思ったんですけど、具体的にどこがどうだったっていうのを、明確に記憶していないので、記憶している方がおられたら、それを入れたほうがいいっていうことであれば、どなたか御発言いただけたら助かるなど。

○網谷委員長 深掘りの3項目ね。

どなたか覚えておられましたら。

一応、私も箇条書きで、皆様の意見として載せてるんですが、その中になかったかなと思うのであれば教えてください。もうちょっと深掘りといいますか、検証といいますか、言葉があれば。選挙出馬のハードルを下げる方法策について以上の言葉が何かあれば。

それと、選挙関連の議会内での申合せ事項等の改善策、議会報告会に関する事項など、多種多様な意見がありましたと、簡単ではございますが述べておるんですが、それに何か付け加える文言でもあれば、教えていただければと思うんですが。

日域委員。

○日域委員 選挙に出たいと思っている人がいたとしますよね。その人が選挙に出る上で、邪魔になるものが何かということは議論しましたよね。

そのときに、まず家族の反対とか資金の問題とか、昼時間の申合せもあり、それをここで言っても難しいよねって議論しましたけど。その程度のことは話をしたと思いますが、それ以外は特になかった感じでしたけど、私の記憶ですが。

○網谷委員長 ありがとうございます。ざっくりとこの3項目をまとめたんですが、付け足すようなところがなければ、よろしいでしょうかね。

初めの、即効性があるものを見かけないでというところは修正させていただいても、皆さん、よろしいですかね。

北地委員。

○北地委員 小田上委員と意見は同じようなところなんですけれども、過去2年間で実施してきたSNSとか、放送関係。ああいうのも実施してきたとかいうのを、文言で入れたらどうかと思うんですけれども。

あと1点、私も前回、前々回と言ってきたんですけど、アンケートの中で、各項目についていろんな意見、出とるわけですよ。それをもう少し掘り下げたらどうかという話で、その辺はもう協議をしないということで、ハードルを下げる方策とかはあったとは思いますが。そういう状況と把握しとるんですけれども、ほかの項目については、もうこれ以上議論しない方向だったと思うんですけれども、確認だけさせていただきたいと思います。

○網谷委員長 意味合いがよく分らないのですが。

北地委員。

○北地委員 打開策について、アンケートの中に疑問点とか、したらいいんじゃないかとかいうのが、いろいろ出とるわけですよ。その辺りはもう議論しないで、最終的にはハードルを下げる方策についてというところで集中的に議論したと。

分からんところについても、意見はいろいろあったけど、とかいうのを入れたらどうかなどは思います。

○網谷委員長 意見があったけど、という文言を。

それはどこに入れたらいいですかね。

小中委員。

○小中委員 もうこれはまとめなので、簡潔をもって旨とすべきであって、意味のないことを書いて何になるんやと、私は思いますよ。

即効性があるものは少ないというふうに、多くの人が認めているわけだから、これを何やるのって、そんなの書く必要はないと思いますよ。

何がメインであったかさえ分かればそれでいいのに、これもあった、あれもあったって、ほんで結局何が言いたいのか分からんような文章をつくってもしようがないわけだね。

要するに即効性のあるものは見つからなかったということでしょう。

まとめるのに当たって全部網羅するなんちゅうのは、何が本質かっていうのが分かってないってことですよね。何でも書きゃええちゅうもんじゃありませんよ。あくまでもまとめなんやから、簡潔をもって旨とすべしやと、私は思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

何か、北地委員、ありましたかね。

○北地委員 小中委員の御意見は拝聴しておきますが、私としては、やっぱり議論の流れというのはまとめの中に入れたほしいという意見でございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 私も北地委員の意見に賛成なんですけど、これまとめというのは、どのように使われるのかちょっと分からなくて。公開するようなものなのか、もしくはこの議会改革の中だけで共有するまとめというものなのか分からないんですが、議論の過程というのはしっかり示すべきだと思います。そういうことを北地委員が言われたのか分からないんですけど、こういう意見が出たということぐらいは、そんなに長々と書かなくてもいいと思うんですけど、主立った議論の内容、どういう議論があったか、というのは少し入れたほうが、これだと余りにも短過ぎてよく分からない。

改革の中の人分かってるけれども、改革に参加されてない、傍聴されてないとか、そういう方が見たときに、何を議論したのかよく分からないという意味においては、ある程度議論したことの内容については書いておくべきじゃないかなと思います。

以上です。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 小中委員が言われたところは、打開策っていうのがいろいろ長期間にわたる即効的なものがないよねっていう話に至ったっていうところを、これ以上増やしてもしょうがないんじゃないかっていうことだと思います。

ただ北地委員が言われたのは、アンケートの中でこれをやったらどうかというものについて、もう少し話し合ってもいいのではという意見があったというところを、このまとめ

の中に入れていただければいいんじゃないかということだと思います。

決して全く相反しているということじゃないんだろうとは思いますが、実際にこのアンケートの中で1個ずつ取り上げて、これはどうか、これはどうかという話はしてないじゃないですか。なので、それをやったらどうかという意見があったという一文を加えていただければ、北地委員が言われたところは酌めるんじゃないかなと思うんですけども。

○網谷委員長 ありがとうございます。意見を言われた方、小田上委員が最初に言われたように、ここはこうして入れたらどうかというふうに言ってもろうたらいいんじゃないかなと思ひまして。まとめも難しいので、今分からなければ後でも、修正文の中に入れていただくということでもよろしいでしょうかね。

小田上委員。

○小田上委員 前回のどういうことで着地したよっていう共通の認識は持って、次のところに入りたいなどは思うので、後に訂正文ってということじゃなくて、今から、個人的な案として。

多種多様な意見交換となりましたっていうところで、その後、加えてアンケートに記載されている打開策についてさらに詳しく掘り下げるべきではないかという意見もあったっていうところで、いかがでしょうか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

主に、北地委員、よろしいでしょうか。

(発言する者あり)

○網谷委員長 いいですかね。

日域委員。

○日域委員 これ、タイトルは6月1日と7日のまとめ。結局、さっき原田委員が言われてましたけど、これ何にするんですかちゅうことですよね。この場にいなかった人に、この委員会で何を決めたというか、審議したというか、残すのであれば、これでは何のことかさっぱり分かりませんよね。

結局この委員会って、無投票だったことを起点にして、それで成り手不足なんじゃないかという前提の下に、じゃあどうやったら立候補する人が増えるかなっていう、そういう立ち位置で始めたものですよ。

それでこの前話したのは、定数削減以外に成り手不足っていうか、立候補者が増えて投票になるような方法がないかなっていうので、定数削減以外の手法は何かって探したわけですよ。

いろいろ出るには出ましたけど、でもそれは記録に残すのはばかれるような程度の話はありましたけど、よく考えたらまずいよねっていうことで終わってしまったわけじゃないですか。

だからここに残すとすれば、定数削減っていうのがまずあるわけですから、それをしたくないって言ったら変ですけども、定数削減以外に何かないかなって考えたけど、定数削減以外ではありませんでしたって、そこが一つのポイントだと思いますよ。それで次に

定数削減ってするのか、でもまあ今回は見送るのか、それは次の選択になるんですけども、今までは定数削減以外のって言ってやってきたような気がします。だからその言葉がないと、私は読む人も分からないと思いますね。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地委員。

○北地委員 議論の流れとしては定数削減ありきで話したとは、私は思っていないですよ。

○網谷委員長 はい。日域委員。

○日域委員 定数削減以外に無投票を回避する方法ないかねって言って、この前やったんです。でもなかなかないよねって。だから、家族が反対して出られない人もいるかもしれないとか、お金がないから出られん人もいるかもしれないとかいう話は、いろいろしたじゃないですか。

そこは定数削減以外の手法はないかねって言って、皆さんで考えたんです。でもなかったですよって皆さんも多分そこは分かっていただけだと思いますが。

以上です。

○網谷委員長 進行方法が悪いのか分かりませんが、個人個人が判断していただきまして、委員会の流れを察していただいたらと思うんですが。

先ほどの原田委員の言われました、どこへどう載せるという問題なんですけど、今回、サイドブックに載せるか載せないかもちょっと迷うんですけど、口頭では分からないので、サイドブックの場合は議会内ですので、公表されることもないと思います。傍聴の方もおられますので、分かりやすいのではないかとということで、私の独断でサイドブックに載せていただいたわけございまして、これが後々ずっと残るというふうな大それた意味ではないと、私は思っております。その辺については以上です。

それでこのまとめとして、今議論になつとるわけですが、文言が足りないという意見があるんだからそれを足していただければと考えているところでございます。また持ち越して、文書を変えと言われましても、時間は何ほどもかかりますので、できればこの場で、今疑問に思っていることを言っていただいて、それでまとめたいところでございます。

今、小田上委員が清書みたいに言っていただいたんですが、ほかになれば、それで修正したものを了解いただければということなんですけど、いかがでしょう。

小中委員。

○小中委員 1つだけ言いたいんですけど、今までSNSでっていうのを、書いてもいいですよ。その後に、だけど即効性のあるものは認められなかったっていうのは、SNSが単なるアリバイづくりのための方策であったということをお白するようなものですからね。と、私は思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 まとめということで、先ほど日域委員が言われたように、いろいろ話し合っただけでも、結局は、議員定数の問題に移るんだと思うんですね。そこを書かないといけな

いかなと思いますので、先ほど小田上委員が言われたんですけど、例えば、議論を重ねてきましたが、即効性のある結論めいたものは出なかったため、次のテーマである議員定数について議論を進めていきたいと考えております、というような文言を入れたらどうかなと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

文言を入れたらということなんですが、無投票回避の打開策という深掘りは、今日から始めようと思うとるので、6月1日と7日は、議員定数の在り方については話してないんです。

発言の中のまとめということなんで。

原田委員。

○原田委員 議員定数の問題、私の言葉の使い方が悪かった。

○網谷委員長 議員定数は、今日始めるんですからね。前は始まってないですからね。

○原田委員 そうですね、それを分かって言っているつもりなんですけど、要は結論が出なかったから、まとめとしては次に進むんだと。議論してみたんだけど、即効性のある結論が出なかったと。皆さん共通の認識のように、打開策というものが出なかったということで、次に議員定数の問題に進むことになりましたと。

別に議員定数のことを話し合ったということじゃなくて、出なかったから、まとめとしては、次は議員定数の問題であろうというふうに議論が進むということになったという経過ですね。

○網谷委員長 議論したことのまとめというふうに僕は認識しとるんですが、議論した出来事が次につながるというのは、最後に言葉としては載せておりますがね。ちょっと皆さんの意見も聞いてみましょう。

○原田委員 分かりました。

○網谷委員長 今の原田委員の発言で、そこまで載せることになると、最後の総括みたいな格好になろうかと思うんです。

小田上委員。

○小田上委員 これをどう扱うのかというところの温度差で、文言の濃淡も出てくるんだと思います。前回と前々回で、こういうことありましたよねと、こういう考え方でしたよねっていう共通の認識のためだけに使うのであれば、細かく書く必要はないのかなと。ここにいるメンバーが分かればいいということであれば。そのように使われるつもりだったというふうに、委員長は発言されたんだと思います。

別に公開するつもりもなく、傍聴に来られた方の資料、前回話した内容を委員が把握しとくためというところなんだろうと思うので、細かく文言についてやる必要はないと思うんですが、今北地委員が言われたこととか、SNSのことは、実際に出ました。なので、それもあったよねというところに一言加えていただく。

そんなに文言を増やすっていうこともないと思いますし、ただ原田委員が言われた、即効性があるものがないので、このまま議員定数の話に行きましょうということになりました。

たって、そんな流れになったかなと。次回はやりますと委員長に言われましたが、個人的にはもうちょっとやってもいいのかなと思いつつ終わってしまった部分もあったので、そこはまとめとしては、行きましようという全体の意識になった感じではないと思っています。

SNSを入れるかどうかは別として、前半2年間の取組も含め、即効性のあるものじゃなかったってということと、深掘りをしたほうがいいってところが入れれば、このまとめはある程度落ち着けるんじゃないかと思うんですけど、皆さんいかがでしょうか。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 これ以上、これを長時間やっても本当に意味ないと思うんです。だから小田上委員が今言われた、その二、三行を加えるなら加えて、それで次に進めばええんやないですか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それではそういうことにさせていただいて、アンケート結果「無投票回避する打開策」、6月1日と7日の協議事項についてのまとめといたしましたので、また修正分としてサイドボックスに載せさせていただきます。よろしくをお願いします。

ということで、日程第1はこれで終了させていただきます。

日程第2に入ります。

議員定数問題に関する全議員16名のアンケート結果の中で、議員定数の在り方についてとそのほかの項目を一括で検証、深掘りしてまいりたいと思います。

今回で検証、深掘りについては締めとし、これから最終結論に向けての具体策の協議に入る予定です。

今日の議題といたしましては、議員の在り方と、そのほかについての深掘りといえますか、検証をさせていただきたいと思います。

最終的な結論に向けての議論になろうかと思っておりますので、議員定数の在り方、その他も入れまして、これからこの議論は2か月そこらは続くと思っております。今日の深掘りも含めて、皆さん議論していただけたらと思っております。

以上です。

小田上委員。

○小田上委員 アンケートを見て、全体を見て削減っていうふうに書かれている方ももちろんおられますし、現状維持もおられると。その他はいろんな意見を集約して決めるべきじゃないかとか、意見がたくさんあります。そこで話を進めていく一番のスタートとして、今回無投票がきっかけで、約3年前に改革特別委員会ができました。

じゃあ、無投票だったよねっていうところでできたんですけど、議会ってどうあるべきかって考えたときに、多分皆さん市民参加っていうのは絶対に必要だと思っていると思うんですね。なので無投票はいかんとする一つの理由は、市民参加ができないから。それは投票っていう形での市民参加です。

ほかに市民参加っていういろいろあると思うんですね。選挙に出るっていうのも市民が参加するという方法ですし、議員に対して、しっかりこういうことをやってくれよと意見を言うのも、市民が参加していることだと思います。どの視点から市民参加を見るかっていう

ので、相当変わってくるのかなと感じています。

アンケートの中で、例えば2減が理想だけど、チェック機能が低下したり市民への影響があるので1減はどうかという提案もありました。なぜチェック機能が2減だと低下するという考え方が出てくるのか。あとは市民への影響っていうのはどういう影響なのか、そこは皆さんどう考えられているのかなと思います。

議員定数が減れば、市民の方が意見を言える議員は減ると。それで立候補しても当選する確率は減ると。ただ選挙になる確率が上がるという、それも担保されているか分からないですけど、じゃあほかの市民参加っていう場所を少なく狭くしつつ、投票っていう形だけの市民参加を取る考え方で行くと、安易に定数を減らすっていうのは言いづらいのかなと。

議会基本条例ができたときには、議論ができる人数っていうものを1常任当たりで考えて決められているっていうふうに認識しております。現状、大竹市議会では、議会を運営するのに何人要るのかっていう、その辺りの話し合いを、していきたいなど。それをしないと、増やすか減らすか現状維持かっていうのは出ないかなと思ってます。どういう市民参加の形があるのかっていうのと、大竹市議会の最低必要人数はどうなのかという考え方で話していくべきだと思ってます。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 私は小田上委員のお話にも若干異論があるんですけども、それぞれの定数を減らす段階で、これが限界だと呈してきたことは確かです。

ただ、そのときによく国のルールも変わるんですよ。委員会の仕事って、我々は何か仕事を請け負って、対価をもらって作業をしているわけじゃなくて、市の、ある基本的な部分の最終決定機関ですから、この議会を通らないとできないことは山ほどありますよね。

だからそういう意味では大事な役割を果たしてますけれども、何かの作業をする立場ではないです。

ただ無投票っていうことがあったので、それを回避するために定数どうしようかねって。最後にそこですばらしい理由が必要かどうか分かりませんが、みんなで決めて、やっぱり現状維持よねとか、やっぱり削減よねって決めたらそれでいいんだろうと、私は思いますけど。あんまり理屈をつけようがないです。

○網谷委員長 ほかにありますか。

小中委員。

○小中委員 何度も申し上げますように、定数削減している議会っていうのは、その前の選挙で無投票だったところが多いわけですよ。無投票になってその定数削減を論じるのはごくごく普通であり、できるだけ無投票を回避するという点において、定数削減っていうのは一つの方法であり、柳井市議会においては、無投票になった時点で多くの会派で、定数削減せなあかんというコンセンサスが既にできていて、改選されたらすぐ全協とかで協議された。まあ、私の感覚からしたらそれが普通やないんかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。小中委員の今までの持論を述べられたということですね。ありがとうございました。

ほかにございますかね。

小田上委員。

○小田上委員 アンケートの中から深掘りしていくっていう作業で、この中の一つに、2減はチェック機能が低下するおそれがあって市民への影響も大きいので、1減はどうかという意見があったと思うんですね。

じゃあ2減だとチェック機能が低下するっていうのは本当なんだろうかって言う話と、市民への影響って何だろうかっていうところで、本当にチェック機能が低下するんですか、低下するって考えているんだったら、議会のチェック能力が下がるんだったら、それはよくないと思います。

いかがでしょうか。

○網谷委員長 原田委員、何か。

○原田委員 小田上委員が言われた、市民参加について、今回無投票だったことからこの委員会が始まっていますので、投票で皆さんが参加できることが、市民参加という意味では第1番目ではないのかなと思います。

それ以外で市民参加してもらえるように努力するというのは、また議会改革特別委員会の中で議論していくべき問題なのかなと思ってはるんですけども、まずは無投票だったということに対して、皆さんが参加して1票を入れられるようなことにすべきではないかなと。

その関連から議員定数になるんじゃないかなと思うんです。チェック機能がついていう話が出たと思うんですけど、同規模の自治体でも14でやっていらっしゃるところもあります。私は1減というふうに提案していますが、1減であれば、十分にチェック機能そのものは働くのかなと思います。

ただ、議会として無投票に対する打開策、対策みたいなものが上げられなかったという心配があります。やはり人口減少という問題がありますので、さすがにもうこの辺りで1減、減らすべきではないのかなと。

それで結果どうなるか分かりませんが、投票という形で市民参加ができるのではないかと考えています。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

この5番についての理由づけ、深掘りみたいな感じのことですよ。

持論ももちろん大事なんですけど、検証と深掘りを、やっているところでございますので、16名の方の意見を参考にしながらしていただきたいかなと思います。

ほとんどが議員定数の在り方を発言されとるんですよ。この議員定数に関する議論は、これから最終結論に向けて延々とやらねばなりませんので、これはたっぷり時間があるかと思えます。

このアンケートの中の16番の方が、定数の見方を変えられて発言されておるので、議論の必要があるんじゃないかなと考えるところですが、皆さん、どう思われますかね。

小田上委員。

○小田上委員 16番の、議会基本条例に基づいてとあるので、議会基本条例の第18条には、定数は議員定数条例で定めますよと。それで同条第2項ですね、定数の改正に当たっては、行財政改革の視点だけでなく、市政の状況及び課題並びに将来の予測、将来のことを考えて、あとは似ている市町と比較・検討しながら決めてきましょうとありますね。基本条例なので、これはやらないといけないよというところで、小中委員が出された資料とかも使えば、ここに当てはまるんだろうと思います。

この条例の中で取り組むのが難しい、取り組まないといけないと思うのが、市の現状及び課題並びに将来の予測及び展望を十分に考慮するということだと思うんですね。将来のことをしっかり考えて、議会とはどういうものである必要があるのかっていう話をしないと、定数を変えられないと僕は認識しています。

それでこの16番のアンケートに戻りますけど、日域委員が言われていることと、ここが一番違うのかなと思うのが、政策提言、政策立案の能力っていうことですよ。日域委員の紹介だと、いいか悪いか決めるのが、一義的な議員の仕事だと。それはおっしゃるとおり、議案を可決すべきか、否決するか、修正かけるかですけど、その修正をかけるとか提案をするという能力を求めるのであれば、やはりどういう形がいいのか、どういう議論を尽くさないといけないのかっていうのはあると思うので、ここを求めるか求めないかで、話をしたほうがいいのかと思います。政策立案能力、提言能力。僕は求めたほうがいいと思うんですけど、いかがですかね。

○網谷委員長 今回の議員定数についても、条例改正が必要となりますので、一つの議員提案ということになるかと思いますがね。

将来的な大竹市の発展のために議員定数をどうするかという問題の提起になるかと思うんですが、そのほかに何か意見がございましたら。これは大竹市の発展のためには必要であるという、議員定数にまた戻ろうかと思いますがね。意見があれば発言していただきたいんですが。

原田委員。

○原田委員 小田上委員に質問したいんですけど、今の政策提言、立案とか、そういうものをするに当たって、それに係る人数が16とか15とか、そういうことを考えないといけないという意味でよろしかったですか。分かりました。

質問だけでした。失礼いたしました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 このアンケートに書いてある書きぶりだと、高めるために専門的な人、よく分かっている人5人ぐらいで議員やったらいいんじゃないかっていう書き方をしてますけど、いいか悪いかとかの議案の判断とか、純粋な市民の意見を酌み上げるっていう作業はできないんじゃないかっていう認識は、恐らく皆さんお持ちだと思うんですね。なので、先ほど小中委員の紹介のあった安芸高田の定数半減も、暴論だということになるんだと思うんです。

じゃあ、この政策提言とかっていうところも、議員としてはやっぱりある程度能力とし

ては必要なんじゃないかと、それと市民の意見を吸い上げていくってところでどう考えたらいいんでしょうかねっていうところで、テーマを提供しただけなので、16番がどうですかって言われたので、ここで話し合ってみたらどうでしょうかという投げかけでした。

○網谷委員長 ありがとうございます。

私が16番と言ったのは、ちょっと違う見方から考えを言われているかなと感じましたのでね。

はい。

○原田委員 今の小田上委員の意見ですけど、政策提言、立案とか、議員の主たる仕事の中にあると思うんですけど、どれぐらいの人数が必要かということになると、多様な意見、ある程度の人数の議員というのは当然必要になってくるんじゃないかと。それぞれに専門分野があったり、人生経験の中で培った知識とかもあると思いますので、そういうものを生かしたりとかしようと思うと、ある程度の人数は当然必要ではないかと思うんですが、ではそれが何人なのかと問われると、難しい問題ではないかなと思います。

現状16でできているとすると、1名とか2名削減ということで、1人の議員にかかる負担というのは、当然大きくなると思うんですけど、それを乗り越えるだけの、能力っていうのは持ってらっしゃるんじゃないかと私は思ってます。

大きな削減じゃなければ、削減しても十分に政策の立案とか、基本条例をしっかり遵守して議員活動ができる人がこの議会にいるんだと思ってますので、そういう意味において、削減してもその辺の心配はないと考えております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

要するに、政策立案にしろ何にしろ、これが議員の定数には影響しないという意味のことですか。

今政策立案ということでちょっと意味が違うかも分かりませんが、前委員会で、試行中ではございますが、決算審査と議会提案についてを、昨年初めて施行してみたんですが、それに似たようなところがあるのかなと。決算委員会は削減することになりますと、今8人ですが、それが7人になるというだけのことで、あまり議員定数とは、16が14になろうと、16が12になろうと、委員会は委員会ですから、あまり定義はないのかなというふうな感じではありますよね。

ちょっと外れたようなことを申しましたが、何かほかにございましたら。

小中委員。

○小中委員 定数削減してくれっていう市民の中から、これ言われたんですけど、奇数にしろと言われたんですよ。私はこれがいいかどうかはよく分からんですけど、議会選で、同数になってくじ引になったことで、奇数やったらくじ引にはならんやろうという、そういう人もいました。

決算特別委員会と予算特別委員会、常任の総務文教委員会、生活環境委員会、それをどっちを8にして、どっちを7にするんかっちゃうのがあって、私は減らすんやったら偶数のほうがええとは思いますが。監視何たらが減るといって、そういう議論がよく分からなくて、

その説明がどうなるんかっていう、そのところは疑問に思いますね。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございますかね。

小田上委員。

○小田上委員 1減らすか2減らすかっていうところを、直接話をまだしたいわけじゃないんだらうと思います。ただ、2だとチェック機能が低下するから1っていう意見があったので、何でチェック機能が低下するんだらう、そのチェック機能が低下すると思う立場に立って話をすると、人数が減ると多様な意見が出なくなるので、視点が1個欠けるというのは、確実にあると思います。

議案によっても、入られている方によって違いますよね。議案に対する質疑の濃淡が違っていると、得意分野があるというところで、1人が減ろうが2人減ろうが、得意分野を持っている人間が減るっていうことは、チェック機能が低下するということにつながる思いは持ってます。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

1時間経ちましたので、暫時休憩したいと思います。

11時02分 休憩

11時12分 再開

○網谷委員長 それでは休憩前に引き続き会議を行います。

会議の前には、小田上委員のほうから、削減すればチェック機能が減ってくるのではないかという意見も出ましたが、ほかに意見がございましたら。

北地委員。

○北地委員 私も、政策をつくるにしてもチェックするにしても、やっぱり人数はある程度要するという現状の中で、減らせば必ずマイナスにはなると思います。

逆に言えば、増やしてもいいのかなという意見も出てくるのかなと。多種多様な意見を求めるために、定数を増やすというのもありかなと思いますけれども、常識的に、今までの歴史を考えればそれは大変難しい話だらうと思います。

その中で、市民参加ということを考えれば、市民モニター制度とか市民政策会議とか、そんな会議をつくって、市民の意見を求めることもできようかと思います。言われるように、チェック機能については、減ることでマイナスになるというような思いはあります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 議員の数が増えたら増えたでいい面はもちろんありますし、減らしたら減らしたで、マイナスはありますよね。議会の役割ですけれども、チェック機能というか、そうじゃない部分もありますよ。一般社会のほかの組織と比べてみた場合に、議会って全員が外部取締役なんですよ。スペシャリストじゃなくてジェネラリストっていうことに期待しているんですよ。

アイデアは中で決めるから、一般の目でうちの会社はどうかチェックしてくださいって

というのが社外取締役の目的なんですけれども、議会っていうのは、職員は議員になれませんかから、社外なんですよ。

政策提案はもちろん、でもそれよりかは外部の一般人の目で、行政のやっていることがいかチェックしてくださいっていうのは、順番から言えば優先事項だと、私は思います。だから、減ったらまずい面もあります。当然人数が減ればマンパワーは減るわけですからね。ただ、選挙があるんだったらそのほうがいいかなっていう、要は天秤の問題ですけどね。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

どちらでもいろいろな理由づけはできるということと、今回の課題は無投票をなくすのが一番の目的だと思うんですが、これには皆さん異存はないんですよね。そのための方策を考えとるということで、その方策の中で意見の違いも出てきたということだと思うんですがね。

いずれにしろ、最終的には何らかの形で結論を出さなきゃならないということも確かなことですので、そういうことを踏まえながらも意見を言っていたいと思うんですがね。

日域委員。

○日域委員 いろんな考え方があるだろうから考えを述べてほしいと、そういう場ですか。そしたらいろんな意見が出ますよね。これを、ここで誰かの立派な案が出て、そうよねって、まとめようと、そういう目的で今この委員会をやっているわけではないですよね。

決めようと思えば、もう決を採るしかないですよね。決を採らずに自由発言しておけば、今委員長がつぶやかれたように、エンドレスですから。単にエンドレスじゃ面白くないなという気もするんですが、一応考えが出尽くしたら、決めなくちゃしょうがないんじゃないですか、という気がします。

○網谷委員長 ありがとうございます。

藤川委員、どうぞ。

○藤川委員 今、16名のアンケートの話をずっと進めていて、確認なんですけど、議会報告会のアンケート結果をここで協議するお考えはあるんですかね。

市民の声なので、一番大切な声だと思っています。16名の意見ももちろん大切なんですけど、その話合いの場があるのかどうか、委員長に確認したいと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ちょっと今日の会議の整理をさせていただきます。

今日の会議は、議員定数の在り方と、それからそのほか。一括して議論を深掘り、検証ということでございます。日域委員が、今日は何をしゃべってもええんかと先ほど言われましたんですが、定義としましては、このアンケートに基づいた皆さんの意見。16名の意見が出ております中で、これはどうなんだという議論のし合いを定義としております。

そこがまず1点と、今藤川委員が言われました、議会報告会でのアンケートの議論は、4月23日に報告会が終わりまして、26日に委員会を開催したと思います。それが議会報告会についての議論だと、私は認識しとるんですがね。

議会報告会としての反省会といいますか、意見交換会はしたつもりでございます。もう一度、疑問な点があれば質問なり自分の意見を言っても、差し支えないと思います。

どうぞ、藤川委員。

○藤川委員 少しは記憶があるんですが、そこまで深く話し合った記憶も、うっすらで。

班長、副班長会議のときに議会報告会のまとめがあったかと思うんですが、それを聞ける場みたいなものがあるんですかね。

○網谷委員長 議会報告会の正副班長のまとめとすれば、今度議員全員協議会があるんですけどね。

議長。

○賀屋議長 ありがとうございます。

議員全員協議会の場で、昨日の班長・副班長会議で決まったことを含めて、再度次をどうするかということも含め、総括をしていくと。その中でメインテーマであるこのアンケートについて皆さんの意見、取扱いをどうするかも含め、調整して意見をお聞きしたいと思っています。

この委員会で、議会報告会のアンケートは取り上げないのかという話かと思えますけれども、当然最終的な取りまとめのところはどういうふうにこれを評価し、報告書の中に反映させていくかというのは必要な内容ではないかと思えますので、その辺はまた皆さんと意見調整、整理をし、まとめていただければと思います。

議員16人のアンケートをまた再度取るのかどうなのかということも、今から議論はあるでしょうけれども、議員の直接のアンケートと、この市民からのアンケート、その中身の整合性が取れるかどうか、その辺を含めた分析をし、どう判断していくか、また議論をしていただければ、ある一定の方向はもう出てくるのかなと思います。

先ほども話がありましたけれども、結論を急ぐのであれば、もう16人で採決をすれば、現状維持なのか削減なのか、削減も1人か2人か、案を出して採決をすれば、議論をする必要もないんですが、議会としての説明責任を果たすという意味で、こういう議論をしたと、こういう意見もあったと、それで最終的にこういうふうに議会として決めましたということ、公表をする必要もあるので、貴重な時間ではありますけれども、皆さんのいろんな意見を調整させていただいておるといふことであろうと思います。

この市民の議会報告会のアンケートのまとめについて、全く無視をするというわけでもありませんので、改めて、議員全員協議会の中でどういうふうな意見が出るのか、また最終的なこの委員会での取りまとめの答申の中で、どういうふうに反映していくのかということを決めていただければと思います。

○網谷委員長 議会改革特別委員会としての立場はそういうことになろうかと思います。

もう一点補足となりますのが、議会報告会のアンケートの取りまとめは、サイドブックに載っておりますので、参考にさせていただいたらと思います。

報告会については議員全員協議会もあることですのでございますので、最終的な取りまとめはできようかと思います。

藤川委員。

○藤川委員 今後アンケート、当日の討論、要望なりが、出てくるんだと思います。よろしくお願いたします。

議員のアンケートですが、私も減らせば市民の声を吸い上げてくるのは減ってくると、これはもう確実ですよね。得意な地域、不得意な地域、あると思いますし、得意な分野、不得意な分野あると思いますので、確実に減れば市民の声も上がってこない、これはもう出てくると思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

削減とか現状維持とか、皆さん考えているところもありますが、7月から、徹底的に皆さんと議論し、最終結論に持っていきたいということでございます。

原田委員。

○原田委員 確かに人数が多いほど市民の声が議会に反映されるのかなと思います。チェック機能に関しても、多いほうがチェック機能は働くのかなと思います。

でも基本条例の中にありますように、議員定数を決めるファクターの一つに、将来の展望についても考えなければならないとありますけれども、2045年で人口1万8,000人予測だったと思うんですけど、そこまで下がっても16名にするのかと。ある程度将来のことも考えて、今回の議員定数も考えるべきではないかと思います。

人口が減ってくると、議員1人当たりが持つ、単純に割った市民の数というのは当然減ってきますので、定数が16になったときの人口と今の人口は違うわけですから。人口が減ってきてもチェック機能が必要だから維持するのかと、そういう議論や無投票の打開策もないとなると、減らすというのは当然考えなければならないことだと思います。今後議論をしていく中で、削減、現状維持、もしくは増やすのか。削減にしても1なのか2なのかということを確認に示していただけると、議論が早まるような気がするんですけども、その辺り、委員長はどのように考えておられるのかお聞きしたいなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今、私の意見をということなんですけど、スケジュールの中でも、9月の最終結論に向けて、7月、8月に具体的な協議をするということであっております。

来月から具体的な検討、協議に入ると示しておりますとおり、アンケートの是非を問うということ。16人ですのか、委員会の中ですのか、それも決めなければなりません。次回の委員会でアンケートについての議論をしたいと思います。その結果によって、また審議の仕方が変わってくると思いますので、それによって、進路方向が決まろうかと思えます。

最終目標は、9月12日に決めたいなと思っております。

○原田委員 ということは、そのアンケートを取るか取らないかをまず決めなくちゃいけないし、取ることになったとしても、それを記名にするのか無記名にするのかということは、また今後考えていくということですね。

○網谷委員長 もちろん。

○原田委員 あと一つ、ちょっと今委員長の発言の中で気になることがあったんですけど、

この中で決めていくのか、全員で決めていくのかっていう。

○網谷委員長 アンケートをね。

○原田委員 アンケートをとという意味なんですね。分かりました。それなら理解できました。ありがとうございます。

○網谷委員長 何かほかに。

小田上委員。

○小田上委員 自分も今日の話合いの中で反省するところはたくさんあるんですけど、個別のことでなり過ぎたという反省をしながらなんですけど、今日は議員定数の在り方はどうあるべきだろうかということと、その他意見というところで、議員定数の在り方って考えると、議員定数ってどうやって決めるのがベストかなっていう決め方ですよ。議員定数の決め方って、ここを基本に決めるのがベストだよっていうのを見つけ出さないといけないんじゃないかなと思います。

きっかけは無投票だったからっていうのは分かるんですけど、そこにとらわれ過ぎると、本来議員って、例えば野球って一チーム、試合に出るために9人要るよねっていう明確なものがあればいいですけど、野球だとそれぞれポジションに役割分担、しっかりされてますよね。議員だとどうなのっていう、仕事の役割分担っていうところで、最初これぐらい要るよねと。仕事をこなしていくためにはこれだけ人数が要りそうだ、プラスアルファ、議案を審議する、話し合うためにはこれだけ必要そうだというものを列挙して決めていくのが、議員の仕事をしっかりやるためには、そういう決め方がいいんじゃないかと思ってます。

なので、無投票どうこうっていうよりも、議員定数はどう決まるべきなのかっていうところの話が具体的にできたらいいのかなと思いました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小中委員。

○小中委員 多分水掛け論になると思いますけど、本人は正しいと思われるんでしょうけど、無投票がいかに重いかっていうことを、民主主義の世の中で考えると、私は正しいとは思いません。市議会議員は市民の口利きじゃないんやから、市民が本当に自分の意見を市政に反映させようとするれば、それは市議会議員に頼るだけじゃなくて、例えば署名なり、議会に持っていく方法はあるわけですよ。

数で勝てば正しいということなのかと。どっちが正しいというのは、多分言えないと思う。

そのトレードオフに関して言えば、無投票を回避するためには定数削減せなあかんと。一方で、意見が反映されない、チェック機能がと。その両方を同時に満たすっていうことはできないわけですよ。それは1人1人の現議員が、自分の良心にのっかって決めるべきことであって、市民のアンケートっていうのは数が少な過ぎるので、それが比例されるかどうかはよく分からないけれども、そういう弱点というのは当然あるわけですよ。それをちゃんと考えなきゃいけないと、私は思います。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 今、小中委員の発言を聞いてて、おおむね納得するなと思ったんです。私は小田上委員と真逆の考えなんですけど、まず削減して、それから議員として何をどういうふうにするべきかとかっていうことを考えても、別に悪くはないと思ってます。

無投票を回避するために何ができて言われると、今までずっと話し合ってきた中で、打開策はないわけです。そうなってくるとやはり1名減らすということで、これが一つの大きな打開策ではないかと思えます。15名でどのように議会運営をしていくかということ、その後話し合っても全然問題ないことだと思います。

まずは減らしてから、その後は議会の中で議論するべきものではないかと考えております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 個人的には決め方の話をしたいです。一回減らしてみてもやればいじゃないって意見もありますけど、今の議会人事で、やりたくないからやらないって人もいますよ。仕事お願いしても期限どおり守ってこないなんて、ざらにありますよ。

それは事務局も苦労していると思えますし、それぞれ委員会を、預かっている委員長、副委員長は気をもんでいるところもあると思えます。そこをしっかりとやるのは、議員個人が基本条例にのっとってやってくださいとしか言えないんですけど、じゃあ少なくしてから仕事の割り振り考えたらいじゃないかって言われて、やりたくありませんとか、できませんとかって言う人が議員になっちゃ困るので、選挙あったほうがいいって言われたらそうなんですけど、現状、そうなんですよ。議員によって仕事の濃淡があるんですよ。

決め方を決めていって、納得する数字を出したいって言うだけなんです。今の現状でみんなどうなっているのかということ、決めていかないと、難しいのかなど。減らしてから割り振り考えましようは、極端かなと思えます。

○網谷委員長 あります、何か。

日域委員。

○日域委員 自治会活動に最近行かないとか、成り手がいないとか、あるじゃないですか。

それ聞いてちょっとひらめいたことがあって、例えば今は行政組織が、ある意味よ過ぎるというか。昔は大竹市内でも、寺とかお宮とか行ったら、そこに誰が寄附したって、石に彫ってあるじゃないですか。今だったら公共事業でやるであろうものが、皆さんの寄附でやって、そこに誰がお金を出してこれをつくったっていうのが、大竹市内にもあるわけですね。

民主主義っていう言い方がいいのかどうか分かりませんが、この社会ってもともとみんながつくって、それぞれが役割を果たしているわけですよ。そのことが全員にとって都合のいいことなんです。1人1人ばらばらでは、何もできませんからね。それが社会の仕組みとして税金を取って、議会をつくって国会をつくってやるって、ある意味すごくよくできている。だから住民も、本当に自分の権利だけ主張して、自分の役割を果たさないと。基本人権だけを振り回していれば、一番楽に生きていけるんですよ。

そういうことが、悪い意味で浸透し切ってしまって、もう土台の部分がかなり腐っているというか、変になってきているんだなって。ある意味制度がよくなり過ぎたのかもしれないけれども、みんなが自分勝手なことをやったら、この社会を維持できませんからね。

そのためにどうするって、その最初の一步が、自治会活動なのか、議会なのか、それで無投票がまずいから無投票をなくすとか、いろんな方法があると思いますけれども、根っこはつながっているような気がします。

定数を減らす、減らさないもありますけれども、議会が、自らのことを自らが決めるんですよと。あなたのことも決めるんですよということを、改めて認識してほしいなという気がします。

自治会がしっかりしてたら、あんなに行けるかいやって、それじゃうちの地区から議員出そうやって、昔だったらそうなたたかもしれないですよ。今、それないんですよ。どうしたらいいか、具体的なアイデアは私、今持ち合わせてないですけども。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

かなり皆さん持論を述べられましたので、一旦ここで深掘り、検証については置きたいと思うんですが、どうでしょうか。

議長。

○賀屋議長 先ほど深掘りの話で出てきました、16番目の方の考え方で、①の多様な意見の把握、市長の監視機能から、多ければええと。これは各自治会から1人出て、70人にしたらええんじゃないかと。監視機能はそちらのほうが保てるんじゃないかという考え方もありますよと。

逆に言えば、今度は政策提言や政策立案の機能を高めるためには、ある程度専門職にならざるを得ないと。そのために合議制を保って、最低限で考慮して、定数を16人じゃなしに5人でもええんじゃないかと。その代わり下部組織をつくって、それには市民組織がつくという極端な例が、多くするという、少なくするという。その中間で、今は16人ですよ。16人の考え方は、議論が深まる人数は、6から7が適正と言われるというふうにあるんですが、確かにこういうほかの議会、あるいは多くはこういう考え方の下に、1委員会を6から7ということで配置をされていると思うんです。1人減らしても、委員会があるので2人減らしても適正ということになるんじゃないかという、この方の意見はそのように読み取れるんですが。大竹市は16人が2常任なので、今の8を7にしても、適正な範囲に入るんじゃないかと、議論ができるんじゃないかという考え方ではないかと思うんですけども、確かにあまり少なくても、意見、議論が出てこない、偏った意見になるということで、確かに7から8人ぐらいが適正な議論の場になるというふうには理解もできるんですけども、その7から8とかいう部分が、8でないといけないということでもない、7でないといけないということでもない。だから大竹は16人なんだということで今まで来とるんであって、それを今回どうするかという話なので、仕事がどれだけ量があって、1人の議員が何をどれだけやらにやいけないのかと、仕事の棚卸しをして、それに役割を決めて人数を割り振って、何人だということを決めるという、それは方法もあるかも分かり

ませんけれども、1人1人の能力の問題もあるし、仮にそれができないから、あなたは議員資格ありませんということもないので、当選した後は、議員の身分というのはもう保障されますから。それをまたとやかく言うこともできない。とやかく言うことができるのは、有権者だけ。

なので、仕事の中身、内容、量によって議員の定数を決めるとかいうことは、できない話じゃないかなと思います。

皆さん1人1人がどういうふう感じて、考えて、現状維持なのか削減なのかという結論、答えを、それぞれがもう出していただかないといけないと思います。

先ほどありました議会報告会の市民のアンケートのことは無視するわけにはいきませんので、考慮しながらそれぞれの議員が判断するということになるかと思いますが、それと併せて、広島県内の同規模の市議会の状況も参考にしていかないといけない。結論が出ると、市民からもよその議会からも聞かれますので、それはそれぞれがしっかり答えられるようにしておく必要があるんじゃないかなと思います。

長くなりましたが、以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 今回の議長の発言がほかの議員からいただけたら、議論という中で出てきたやつで、うれしかったかなと思うようなことではあるんですが、議長が言われたことで、16番のアンケートで少し違う意見というかですね。議論が深まる人数が6から7人で、適正だというふうにいるなどところで言われているというのは、いろいろ調べても、そういうふう書いてあります。

1 常任8つというのは、1個減らせるんじゃないかっていうのは違うのかなと。特別委員会の委員長の経験からすると、委員長というのはその会を進行することに全力を注ぐんですよね。基本的には、自分自身は審査っていうものに関わらないと。もちろん質疑したりはしますけど、その議事進行を円滑に行う役割が委員長にはあると思ってます。副委員長はそれを補佐するということで、表決に関しても、委員長はもちろん1票を持ってないということなんです。

同数の場合は委員長が決めるということにはなりますけど、そこで考えると、8でいいんじゃないかと思ってるんだと思います。常任が8人いても、委員長と副委員長は実質審議に参加しづらいところなので、6人から7人で話し合うところでは、ちょうどじゃないかという書き方なんだろうと思います。減らせる余地があるという書きぶりじゃないんじゃないかなと理解をしています。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 議長の御発言と御意見、また次のステップにもつながることと思います。今回の深掘りに関して言えば、12月のアンケートですので、これをどこまで深掘りするのかということになると思うんですけど、私はこの程度にとどめて、12月から議会報告会もあり、

補欠選挙もありました。12月当初はそういうふうな意見だったかも分かりませんが、当然変わった方もいらっしゃると思います。改めてそのアンケートを取ることを次に話し合うということであれば、まずそのアンケートを取るか取らないか。アンケートが古いので、改めて取り直して、そこから議長が言われたようなことも含めて議論をしてはどうかかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○網谷委員長 いかがでしょうかと言われても、今判断できませんので。

皆さんかなり議論なり、深掘りなり、検証なりされたと思いますが、一応この辺で検証、深掘りについては締めとしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 結構ですという声が聞こえた気もしますが、今日この在り方がどういう共通認識を持てたのかだけ、教えてください。どういうことになったんでしょう、今日。

○網谷委員長 これ、私が答えるんですか。どなたか答えられますか。

(発言する者あり)

○網谷委員長 昨年9月からずっと、小田上委員がいつも言われていますように、全然進んでないと。これ、皆さんがやるということになれば、今日でも明日でも、結論が出んとは思いますが、どうですか。

小中委員。

○小中委員 今日何が決まったかって、今日それぞれの意見を聞いたちゅうだけで、今日はこうだって一々その確定する必要があるとは思えませんけどね。

皆さん今日の5時までやる覚悟があるんやったらそれはそれでいいんだけど、取ってつけたような、自分のその持論のほうに持っていこうちゅうだけの話で、皆さんの意見が出てきたらそれでええやない。

○網谷委員長 という意見もありましたが。

小田上委員。

○小田上委員 今日の議題がちゃんと遂行されたのが心配です。在り方について深めるっていう作業が、発言した委員からの意見をもらうということに終始することでいいのであれば、深掘りとしてもいいと思いますが、このアンケートを基にした議員定数の在り方について、在り方ってこういうもんだよねっていうのが要らないんであれば要らないで、要らないと言っただけでもいいんですけど、今まで委員長が頑張ってまとめてこられたじゃないですか。今までこれをやったよ、みたいなのは特になく、いろんな意見がありましたで終わるのか、一定の方向をつくるのかっていうところで、着地点は変わるかなと思います。

着地点がなくてもいいならいいですけど、今日この議題について、結果どうでしたっていうのがないままだと、この委員会、せつかく2時間使ったのにもったいないという気がするだけです。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 もったいないって、個人的な感想であり、全部、今日はこうやった、こうやって結論を出す必要は、私は全くないと思います。最終的に結論を出すのは1回、今日

はこういう意見が出ました、ならそれでいいんじゃないですか。それを深掘りって言って、その名前だけで、それで実際それをそこまで、私は多分できないと思いますけどね。

皆さん5時までやるんやったら、これこそ多数決だから、やってもらっても結構だけど、私はもうこれ以上やる意味はないと思います。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 委員長のほうから、深掘りについての議論はこの程度についておっしゃったし、それに決を採って、多数であればそれでよろしいのではないかと思いますので、委員長が決めていただければよいと思います。

○網谷委員長 委員長が決めていただいたらよろしいという意見が出たんですが、よろしいですか。

日域委員。

○日域委員 決められなかったら決められなくていいと思いますけど、今さら小田上委員の意見に反対するわけでもないけれども、これも企業の会議であれば、社長が、おまえら何時間かかって何決めとんやって、ちゃんと決めやって言ってもいいと思います。これは議会の中の委員会ですから、それはいろんな意見があって、なかなか決まらなくても、それはそれで、あまり褒められたことではないかもしれないけど、そういうものです。

我々の身分を制約することを今、自ら決めようとしているわけですから、なかなか難しいんですよ。多くの場合は、時々小中委員が言われますけれども、よそではってというのは、こういうものをつくる段階で、水面下では一種のコンセンサスができていますよ。大竹市のこの委員会は、無精卵を一生懸命抱えて温めてるんですけれども、ひながかえらないですよ。そこに、基になるものがないですから。

だから最後は、皆さんの意見をしっかり聞いた上で、あとは決を採ってどうするっていう方向で行くしか、委員長にアドバイスするのもおこがましいんですけども、そうしないとエンドレスで続いてしまうと思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

北地委員。

○北地委員 小田上委員の気持ちもよく分かるんですけども、今までの進め方の中で、因果関係については特になしと。それと打開策については、即効性のあるものがないと、一つの結論が出とるわけですよ。

今日の結論、小田上委員がすごく気にしとったんですけども、定数をどう決めるべきかというテーマを1つ出されたんですけども、皆さんはその辺はあまり、意見はなかったということで、私も小田上さんと同じような意見ではあるんですけども、一つの何らかの形が見えたらそれでよかったんですけども、今日はもう意見の聴取で終わってしまったというような感じで受け止めざるを得ないのかなと。あとはその辺で、委員長判断でお任せするしかないのかなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議長。

- 賀屋議長 すみません、今、北地委員が意見はなかったと言われたけれども、皆さん、意見言いました。削減であるとか、あるいは現状維持であるとか、あるいはその決め方をどうするかとか。それが意見なんで、それがなかったと言ったら、この2時間何じゃったのかということになるので、それは今言われた意見を参考に、また皆さんが判断してくれればいいんじゃないかと思います。
- 北地委員 僕が言うのは、それぞれで一つ、結論めいたものが見えとるんですよ。今日の在り方について、結論めいたものはなかったでしょう。そういうことを言っているだけです。だから意見の聴取、いろんな意見がありましたというのは言えるとは思いますが。
- 賀屋議長 今北地さんが言われたのは、意見がなかったというふうに最初言われたので、意見はあったということで、その取りまとめが今ここでできなかったというのはいいんです、それで。
- 北地委員 意見がなかったなんて言ってません。
- 賀屋議長 いや、意見がなかったと言われましたよね。意見がなかったのと言ったので、それは違うと私は言うた。その意見というのは出たんで、それは皆さんの中で判断をしてくださいということですから。それを、すぐこの場で取りまとめをしないと終わらないということではないので、その辺は理解をしてもらわないと。
- 網谷委員長 ありがとうございます。
- 賀屋議長 ちょっと休憩しましょう。
- 網谷委員長 3分休憩します。

12時07分 休憩

12時10分 再開

- 網谷委員長 これより休憩前に引き続き委員会を再開いたします。
- なかなか議論が白熱し過ぎて結論が出ませんので、検証、深掘りについては、雰囲気的にもムード的にも採決は採りませんが、今日この時間をもって終了とさせていただきます。
- 次回は先ほどから何回も意見が出ておりますが、アンケート実施の是非について協議を、最終段階までに持っていきたいと思います。皆さん宿題と言えは宿題ですので、その辺のところをしっかりと考えておいてください。
- 次回開催日ですね。再来週ぐらいに思うとるんですが、6日。どうですかね。
- (発言する者あり)
- 網谷委員長 6が悪いということになると、7の昼から。
- 賀屋議長 議員全員協議会の後。
- 網谷委員長 まだ正式ではないんですが、議会運営委員会が入る予定かも分らないので、1時から予定しときます。
- 7月7日木曜日。13時からね。
- それから、今日のまとめはまた、次回に披露させていただきます。それでよろしいですかね。
- 以上で議会改革特別委員会を閉会といたします。お疲れさまでした。
- もう一つ、今日の訂正分ですが、訂正分を載せまして、そのまた修正がございましたら

事務局のほうに言っていただいて、修正していただいたらと思いますので、よろしく
お願いします。

以上で終わります。

12時15分 閉会